



4月19日、なんばで開いた大演説会で、志位和夫委員長は、「アメリカいいなり政治の転換こそが、日本外交に求められている」と外交問題を縦横に語りました。

## 日本外交の根本転換の方向は、アメリカいいなりを脱し、

# 憲法9条を生かし平和外交でこそ

### TPP・沖縄基地問題

TPP(環太平洋連携協定)に参加すれば、「食糧自給率は13%」(農水省)となり、食の安全は失われ、地方経済は大打撃を受けます。一方、大企業は、海外進出を強めて国内産業はいつそう空洞化、中小企業には輸入品との値下げ競争が強いられ、雇用も悪化します。「混合診療」の導入で国民皆保険制度も崩壊しかねません。

日本共産党は、日本をアメリカに丸ごと売り渡す「TPP参加」に断固反対します。

また、沖縄米軍基地問題では、沖縄県民の島ぐるみのたたかいに連帯し、普天間基地の「県内移設」を撤回し、無条件撤去することを強く求めます。

### 紛争を戦争にさせない

安倍内閣は、対話による外交戦略を持たず、もっぱら「力と力」の立場で、軍勢力・日米軍事同盟強化、憲法9条改憲へと突き進もうとしています。

しかし、アジアでは、「紛争を戦争にしない」「紛争の対話による解決」、軍事に頼らない「平和的安全保障」という考え方を実践する国が、東南アジアを中心に広がっています。憲法9条を生かした平和外交で、アジアと日本の平和を確保することにこそ未来があります。

日本共産党は、この「平和的安全保障」を、北東アジアにも広げていくことを提案しています。

### 北朝鮮・中国をどう見る

改憲派は、「北朝鮮や中国との関係を考えても憲法改定が必要」という宣伝を行っています。しかし、北朝鮮の問題にしても、中国との紛争問題にしても、何よりも大切なことは、道理にたった外交交渉による解決に徹することです。

さきごろ飯島勲内閣官房参与が北朝鮮を訪問しました。詳細は不明ですが、軍事を含め圧力一辺倒の対応に終始してきた安倍内閣が対話に動いたのは歓迎すべき方向です。日本共産党は、北朝鮮や中国と、ねばり強く外交交渉をおこなうことを、あらためて安倍内閣に要求しています。

## 韓国でも注目集める 日本共産党の外交

韓国で出版された志位委員長の著書『いま、日本共産党』

▲志位委員長のインタビューを掲載した韓国の日刊紙『京郷新聞』(2012年7月14日付)

韓国では、日本共産党の書籍が韓国語に翻訳されて初めて出版されます。タイトルは『いま、日本共産党』。

志位和夫委員長は、出版にあたって新たに書き下ろした序文のなかで、緊急課題としての「慰安婦」問題の解決の道を提示するとともに、「日本が過去の植民地支配に対して誠実な態度をとり、その根本的清算をはかることは、両国間に存在する懸案課題を解決するうえでも、冷静な話し合いの土台をつくることになるでしょう」と、韓国との外交での基本的立場をのべています。

いま韓国では、こうした日本共産党の外交路線の確かさが、さまざまな角度から語られています。



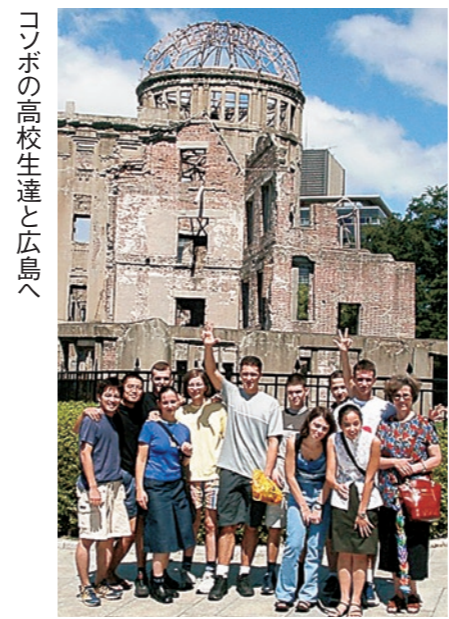
## コンボ、9・11テロ

# 反戦平和を胸に コートロー

1976年生まれの36歳。北野高校卒業後、単身渡米し、ボストンのエマソン大学映画学科を卒業。帰国後、映像制作会社で働き始めた頃、国際ボランティアとして、コンボ(当時のユーゴスラビア)にいる高校生の「日本招聘プロジェクト」事務局長として活動します。そのときに9・11同時多発テロが起きました。

アメリカによるアフガニスタン攻撃を目の当たりにし、「武力は憎しみの連鎖しか生まない」と強く胸に刻みます。そして、侵略戦争反対をきっぱりかかげる日本共産党に入党することを決意しました。

アメリカ言いなりの政治、外交から、憲法9条を生かした平和外交へ。たつみコートローは全力で国政に挑戦します。



アメリカ留学時代

## 憲法を生かし 政治を変える。 日本共産党



参議院選挙 制度解説  
選挙区は 候補者名で。  
比例代表は 政党名でも 個人名でも投票できます。